

# 平成21年度第3回仙台市環境審議会 議事録

平成21年12月22日(火)

10:00~12:00

仙台市議会第二委員会室

## I 次第

### 1. 開会

### 2. 議事等

(1) 仙台市環境基本計画の改定に当たっての主要な課題等について

(2) 起草委員の選任について(案)

(3) その他

### 3. 閉会

## II 出席委員数

出席21名

欠席7名(赤祖父委員、木村委員、鈴木(力)委員、鈴木(陽)副委員長、林山委員、山本(昭)、山本(玲)委員)

## III 議事等

議長(佐藤会長)	それでは、議事等に入る。最初に、前回の審議会で指摘された点を、事務局から説明したいそうだ。そちらを進めてよろしいか。 (委員了承)
事務局(環境企画課長)	資料3および参考資料1~6に基づき、関連計画について説明。 引き続き、資料4に基づき、仙台市の温室効果ガスの排出状況について説明。
議長(佐藤会長)	これについて、何かさらに質問、意見等はあるか。
鈴木(由)委員	資料4の円グラフは約5パーセントの減少となっていて、右側はパーセンテージの合計が99%だが、数値的にどこが正しいのかを教えてください。
事務局(環境企画課長)	端数の四捨五入の処理の関係で100%になってない。730万トンが690万トンくらいに落ちているということである。この数字は、かなり荒い数字なので、取り扱いには留意してほしい。そういう意味で、厳密な数字ではないことをご理解いただきたい。
工藤委員	資料4で、家庭が19%と増え運輸部門と産業部門が減っている。パーセンテージでは運輸部門と産業部門が多く、そっちが悪いということになりかねない。この間質問したように、家庭部門の中でマイカー使用の排出量をはっきりしてほしい。今までのデータでは、運輸部門にくくられている。家庭で

<p>事務局（環境企画課長）</p>	<p>使うマイカーは都市によって差があり、大都市の東京などは公共交通利用でマイカーは少なく、地方に来るとマイカーに頼らざるを得ない。その排出量を、精度はよくなくていいので仙台市民がマイカー何10万台使って、一日にどれくらいCO2を排出するかを係数で計算すれば、出せるだろうと思う。</p> <p>それから、仙台市の690万トンという総量を、どういう手順でどこまで削減するかをこれから議論していきたい。そういう面では、家庭部門のデータをもう少し出してもらえれば、かなり目標、手段をとった計画が練っていけるのではないかと。</p> <p>市民の方々に呼びかける際に、運輸、特にマイカー使用を控えるのは相当ウエイトが高い。この部門別の分け方は国全体のやり方に沿っており、運輸部門の中でマイカーか営業用かはっきり分けられないが、市民にアプローチするときには重要である。大体、家庭から排出するCO2の1/3がマイカー、1/3が照明等電気、1/3が冷暖房や給湯関係といわれている。割合が高いのは事実なので、正確なデータは出せなくても、示し方は工夫したい。</p> <p>次にCO2の目標は、我々の中で作業を具体化し、温暖化の専門的な部会のようなものを環境基本計画の中間案がまとまったところにスタートしたいと考えており、その中で議論してほしい。我々としても、仙台市でどれくらい削減可能か、その場合、国、県、市あるいは市民や事業者の方々にどこまでやってもらわないといけないか、シミュレーションを行っている最中なので、早ければ次回の審議会に、何らかの形で議論の土台を示していきたい。</p>
<p>議長（佐藤会長）</p>	<p>資料4の話ばかりだが、資料3の計画のほうもご議論いただきたいが。</p>
<p>池田委員</p>	<p>資料4の補足をしたい。国では運輸部門のCO2排出量を、自家用乗用車と貨物自動車、その他の輸送機関の3つに分けて把握し、その合計で削減目標を定めているが、これら対象に応じた取組が必要である。このため東北運輸局でも、事業者の方々にはCO2の排出量が少ないトラックやバスを買ってもらうという、相手方を考えた対応をしている。今の議論のように、自家用乗用車の部分が結構あるので、市民の方には、エコカーを買ってもらうとか、エコ通勤をしてもらうとかといった相手方を見ながらの仕事が必要だと思う。</p>
<p>議長（佐藤会長）</p>	<p>資料3の説明もあったし、当審議会の中でも、総合計画審議会に3名の方が委員に委嘱されている。鈴木委員、樋口委員、間庭委員である。この資料3についても議論いただきたい。</p> <p>特に間庭委員は、総合計画の起草委員でもあると聞いている。ここで補足というか、コメントをもらえればありがたい。</p>

<p>問庭委員</p>	<p>今、紹介されたように、私は総合計画の起草委員でもあり、資料3の左から2番目の都市計画審議会にも会議所の立場で入っている。</p> <p>先ほど事務局の説明にあったように、都市構造上CO2を排出せざるを得ない状況は間違いない。東西線という膨大な投資をする以上、その成果を土地利用、総合交通体系に環境に優しい都市構造に変換していく議論が両方の審議会に出ていて、この環境審議会の議論と符合するところが多い。</p> <p>総合計画審議会や都市計画審議会でも、企業や市民に都市構造上の負担をかけないで構造を変えることによって、ライフスタイルや企業行動を促し、環境に優しい仙台の都市構造を実現していける具体的な手立て、目指せるものをしっかりとうたっていきたい。単なる個人のモラルだけでないものを提供しないと、車に頼らざるを得ない現実も否定できないので、規制やモラルも必要だがそれだけでないシステムを、しっかりそちらで議論して具体化し、環境審議会の議論とマッチングしていけるようにいきたい。たまたま委員を仰せつかっているのだから、その役割を負っていきたい。</p>
<p>議長（佐藤会長）</p>	<p>是非よろしくお願ひしたい。私には、環境に優しい行動が取れるような都市環境をつくるのが大事だと聞こえた。他に鈴木委員あるいは樋口委員から発言はいかがか。</p>
<p>樋口委員</p>	<p>私も総合計画と3つほど委員をやっているが、その中で特にこれから少子高齢化で人口減少に移ると、都市構造も相当大きく変えないと環境に優しい都市にならないと発言している。特に今、郊外で飛び地の団地があり、今後行政でも維持管理に苦勞する場面が出てくる。コスト的にも大変で、都市構造をコンパクトで高機能なものに変えることを主張しており、そういうものを環境の中でも活かしていければ、緑も多くなるし、是非実現したい。</p>
<p>鈴木（由）委員</p>	<p>今CO2を排出する問題として、家庭で給湯、電気が関係する話を聞かせてもらったが、新しいCO2を排出しないエネルギーの考え方を、これから先、何十年もの間に実行する部分を計画に落とさないといけない。環境部門でも、仙台市の総合計画でも、そういう大きな目で見えた環境を持続、改善していく内容を、きちっとこれからやっていかなければいけないと思っている。</p>
<p>議長（佐藤会長）</p>	<p>事務局だけではなく、今発言された3人の委員の方々も媒介にして、できるだけ我々の考える環境が、全体計画に反映できるといいと思っている。特に3人の方々によろしくお願ひしたい。</p> <p>まだ議論があると思うが、これは前回の積み残しの部分で、本来の議題もあるので、このくらいにさせてもらう。</p> <p>それでは、議事の内容に入る。まず（1）を事務局から説明してほしい。</p>

事務局（環境企画課長）	資料2に基づき、今回の審議の主なテーマを説明し、また資料5に基づき、(1) 仙台市環境基本計画の改定に当たっての主要な課題等についてを説明。
議長（佐藤会長）	<p>これまで議論したことに加え、資料5の3ページの後半以降を中心に意見がほしいということなので、これから約1時間弱くらい意見を伺う。</p> <p>自由に発言してよいが、資料についてはそれが分かるように言ってほしい。</p>
工藤委員	<p>全体を網羅したスケジュールと方向性を示され、大分多岐にわたる。これらを各論からやっても、全体像がどこを目指すか理解しにくい。</p> <p>低炭素社会を実現するためには、いわゆる車の話でも、マイカー規制、エコカーへのインセンティブ、都市交通の利便性向上、これらは全部マイカーに頼らずに移動できるシステムのことである。マイカー前提の社会基盤のため、お年寄りだけが残る団地ができるという現実になっている。そのときに、モラルや規制、負担ではなくシステムを大きく位置づけないといけない。仙台市として5年10年先に、排出量を段階的に減らす目標を設定し、どのように実現するかというときに、二つ欠けている点がある。</p> <p>低炭素社会を実現するための技術開発。今の車のCO2排出量を10分の1にするためにどんな技術開発が必要かなどの研究開発を、仙台市が大学と技術開発のビジョンを追求していく。それで、新しい産業が生まれる。今までの産業構造の延長線上で議論しても、対処療法的なことしか出てこない。</p> <p>それともう1つは経済。CO2削減目標を設定すると、経済の足を引っ張るという議論が先にたつ。理念をはっきりし、市として数値目標を立て、達成のためにどうするか。まず目標を決めたほうが、議論しやすいのではないか。</p> <p>みやぎ工業会で議論してきたことだが、仙台市の家庭で出すCO2の中で、マイカーから出るCO2が一番多い。運輸部門も、例えば宅配便で細かくすぐに持ってきてくれるが、これは経済面ではビジネスになる。だけど、家庭の宅配便の3回分を1回にまとめるような業界とのビジネスモデルをつくってあげばいい。そういう両面を考えて、議論して欲しい。</p>
議長（佐藤会長）	<p>目標を先に決めて議論したほうが良いという意見である。それから、具体的に経済との関連について、確かに宅配便は留守に何回も来て申し訳ないと思うが、エネルギー的に考えれば無駄だと改めて思った。</p> <p>今のような意見に加え、どんどん意見をちょうだいしたい。</p>
間庭委員	<p>途中退席するので、発言を先にお許し願いたい。資料5の全体的なことだが、総合計画などで仙台市が企業・市民とのパートナーシップを高らかにうたっているのに、6ページに市民・事業者だけでなく行政もしっかり位置づけをして、一緒にやっていく姿勢を出して欲しい。例えば今の6ページの冒</p>

	<p>頭の箱囲みも、(2)も、次のページの(3)「市民による推進体制」も、行政も一体となって、市民・事業者・NPOとやっていく姿勢を出さないといけない。普段はパートナーシップと高らかにうたっていて、バランスを欠いてしまう。必要なときは市民と書いていいが、基本的に環境全体をどうしようというときに、行政が引っ込んだ感じを与えるのはよくない。</p> <p>書き方は技術的にあると思うが、姿勢として、しっかり行政も一緒になってやることを、やはり行政も計画を立てるだけでなく地域における担い手の一員なので、環境局という意味だけでなく、オール市役所とか、県庁もすべて入るが、そういったものに参加しながら、仙台市としての都市の将来を目指していく姿勢がにじみ出てほしい。</p>
<p>議長（佐藤会長）</p>	<p>企業体という意味で考えると、仙台市は大きな企業だし、今のように別な計画との整合性、水準も合わせてほしいという意見だったと思う。これはまた、事務局のほうにも考えてもらおうし、今後頭の中においておきたい。</p> <p>他にどうぞ意見を、自由に出していただければと思うが。</p>
<p>川嶋委員</p>	<p>資料5の3ページ以降でよく分からないところがある。3ページの上段の環境課題の背景認識が、後ろにどういかにされるか。課題を下段の観点の例で見ていったときに、5ページの具体例のような升目の中に入るのか、課題が横にあって視点が縦にあってその間に施策例が入るつくり方と思うが、いまひとつ流れが見えない感じがする。</p> <p>それともう1点、4ページ「杜にまなび、杜といきる」とあるが、それは仙台市の何かで出てくるのだと思うが、その元々が分からない。元になる考えが分からない中で作り、整合性が取れずに分からなくなっていると感じた。</p>
<p>議長（佐藤会長）</p>	<p>これはちょっと質問のような感じなので、事務局から考え方を示してもらったほうがよかろうと思うが。</p>
<p>事務局（環境企画課長）</p>	<p>最初に直面する課題等の整理の仕方だが、5ページ以降の表と直接リンクしないので、確かに分かりづらいかもしれない。2・3ページは計画全体をトータルにとらえた課題の整理である。今後文章を具現化するなかで、全体と、個々の取り組みとの関連、特に体系との関わりが出るよう工夫したい。</p> <p>それから「杜にまなび、杜といきる」だが、手元の冊子「杜の都環境プラン」33・34ページで、現在の環境プランの「環境面からみた全体的な仙台市の目指すべき都市像」として掲げている。このフレーズは、杜の都といわれる仙台市が、自然との共生やさまざまな循環のシステムを利用して現在に至ること、またそれを支えてきた先人たちの智恵もあること、今を生きる者たちも同様の生き方、システム作りの姿勢を、もちろん現代的に解釈するところはあるが、そういう姿勢を貫き通すべきだということ表現している。そ</p>

	<p>ういう意味で、これは普遍的な意味合いがある。ただ、低炭素都市づくりとか新しい課題が見えているので、それに対応するときにこのキャッチフレーズで十分か、例えば、杜という森林、市街地の緑を含み、緑のイメージが大きいので、緑と低炭素のいろんなイメージが出てくる。そういうことがもう少し伝わる表現を工夫するべきではないかと思う。これを出発点として是非議論してほしいので、このフレーズにこだわらずいろんな意見をもらいたい。そういった形で、全体のキャッチフレーズも、審議会で議論いただきたいという趣旨である。</p>
川嶋委員	<p>今の説明だと、3ページの基本的考え方にある話だと思う。基本的考え方はこうで、そのキャッチフレーズを具現化したときに、後のものが出てくると思う。ただ作り方だけかもしれないが、もやっとしたものを細かく砕いていく作り方だと分かりやすい。先ほど言われた課題を具体的に、できれば文章ではなくて図で、矢印で説明していける図のほうが私は分かりやすい。</p>
事務局（環境部長）	<p>これからの議論を踏まえ、そういう形で課題と対策・施策に整理したい。まず杜の都環境プランの全体の都市像、現在の計画のコンセプトとして、「杜にまなび、杜といきる都」をかなり前の段階で、市民の皆さんや審議会等から意見をいただいてまとめた。当時はまだ地球環境問題に、自治体も取り組まなければならないほどでなく、また人口減少社会、成熟社会に向かうところではなかった。</p> <p>この大きなコンセプトをこのままでいいかということについても、できたら全体像として市民の方に示し、議論してほしい。</p> <p>それから資料2に審議していただきたいテーマがあるが、現在の仙台はこういうところが問題だ、例えば、「交通政策や環境質について、私は問題だと思うので、今後10年20年先を考えて、もっと仙台市はここを優先的にやらねばいけない」とか、幅広い識見を有する委員の皆様から出していただきたい。私どもはそれを取り込んで、計画の中にどう盛り込むか取りまとめ作業をしていきたい。私どもの資料と重複するところがあっても、課題認識とか、あるべき世界、あるいは日本全体、他都市、それから皆様のご専門の識見も踏まえ、仙台市としてやっていくべきことや気づいていないところを出してもらえれば、大変ありがたい。</p>
議長（佐藤会長）	<p>資料5はまだ粗い物で、実際に出来上がる計画はいろいろ説明や、絵での概念の説明が入ると思う。ただ、私が今の議論を聞いて思ったのは、「杜にまなび、杜といきる都」は、前の環境基本計画から出てきて、長く仙台に住んでいると分かるが、新しく市民になった方にも分かるような形での提示の仕方も大事だ。今、仙台市は人口100万を超えているが、今の出生率を考えると多分増えているのは社会増で、新たに移入された方々がいる。そういう方々</p>

	<p>が違和感なくこのフレーズで全部のコンセプトが表せるわけではなくとも、確かにそうだなあという仕掛けにしてほしい。</p> <p>他に何か。</p>
矢野委員	<p>資料5の2ページに環境の範囲と4項目挙がっているが、私どもでは農村なり里山、田園の持続的な活用という観点から計画をつくってほしい。資料5の2ページに、農村環境とか、もし項目がつけづらいのであれば、どこかに里山・田園云々という言葉をお願いしたい。本日の資料の参考資料4の2枚目に、緑の現状があり、樹林地、草地、農耕地など、相当な面積を占めているし、また環境基本条例7条第2号に「人と自然が健全に共生することのできる良好な環境を確保すること」とあり、また、さきに仙台市農業基本計画を作成した際、平成18年に農業農村に対して市民が重要性を認識しているパーセントが相当な数字が上がっていた。そういう点で、農村なり田園もしくはは里山とかも、計画の中に織り込んでほしいというお願いである。</p>
事務局（環境企画課長）	<p>環境プラン冊子の5ページに、環境基本条例第7条が載せてある。第7条第2号に「生態系の多様性の確保云々、森林、農地」とあるが、ここを例えば今日の資料5の2ページでは、ひとくくりに自然環境と入れているところである。我々の認識としても里山・田園を大事にしたい。実際にプランに書くときには、もうちょっと詳細な記述をすることになると思うので、ご理解いただきたい。それから特に、里山、田園の環境配慮については、6ページ環境配慮の指針の（3）土地利用における環境配慮の指針が出てくる。地域属性で、山地、丘陵地、東部田園地域があるが、そこで里山や田園の保全、活用など具体的なことも記述していくことになると思う。今の環境プランでは72ページ以降にあるので、そちらも参考にしていきたい。</p>
小林委員	<p>里地里山の保全は是非盛り込んでほしい。この資料5の2ページの（1）の②自然環境の中に入るのかと思っていた。来年は生物多様性条約の第10回の締約国会合が名古屋で行われる。生物多様性の保全に更に積極的に取り組んでほしいと思う。そういう意味でも里地・里山の保全に関する取組み、これを積極的に推進すべくいろいろな取組みを考えていければと思う。</p>
花輪委員	<p>資料5の2ページで環境を4つに分けている。5ページ分野で、5つに分かれている。この関係が若干分かりにくい。実は2ページの4つの環境の概念を我々はつくる、どうやってつくるかという切り口を設ける、そして二酸化炭素を出さないと区切って5ページになる。</p> <p>例えば、今、里山が出たが、②の自然環境のところから、5ページのくくり方だと、自然共生都市づくりである。だから、2ページ目の環境と、5ページ目の仮に分野という言葉で呼んでいる施策の関係が明確になるといい。</p>

<p>工藤委員</p>	<p>それから多分あるのだと思うが、例えば、仙台市環境憲章というか非常に抽象的でいいが、私たち仙台市はこういうことを目指すというものがあって、それを具体的に今後10年で、数値目標も含んでどこまでどういう施策でやるかという立体構造があるといい。例えば、仙台市環境憲章といったのは、2ページに書いた①から④、こういういろいろな環境を私たちは保全したり何したり、ということが書かれていればいい。</p> <p>この杜の都環境プランと仙台21プランが策定されたのは約10年前である。その頃の価値観は、経済成長の中でどう環境を守るかという、排気ガスや騒音、公害の問題である。そのとき、仙台市でなく、グローバルな視点から、現在ここで掲げたことがどう評価されてきたのか。今までの価値観の延長線上で議論しても、発想が変わらないと堂々巡りの議論になる。その論点が、これからスタートする中で、いろいろ個別の低炭素社会を実現するためのとらえ方でもいいが、なぜここに書いた議論をするかという共通認識を持った上でやらねばならない。だから、10年前と今と何が価値観が変わってきているのか、あるいは国に対する仙台という地方圏の都市との関係などを、考えなくてはいけない。</p> <p>それから杜の都とは昔から言われているが、実は金沢も森の都といわれている。仙台の場合の杜の都は、まちの中が緑だからだと外部の人たちには見える。今から10年前までは青葉山に上がって見渡すとかなり緑豊かだった。それが変わってしまった部分がある。先ほど、田園とかの議論があったが、なぜそうなったかは多分経済力の支配が利いてきたとも思う。こういう議論も意識して、いい施策を是非つくりたい。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>私も今までの検証はすごく大事だと思う。変わったものと変わらなかったものは何かを確認する作業があって、では何が大切か、が見えてくる。</p> <p>さっき杜の都の話が出たけれども、私もこのフレーズは大好きである。杜の都は、杜が自然の象徴だととらえると、例えば空気の流れ、光の流れといった生命にとって大事な自然という機能と、都市の機能をいかに融合させ調和させるかという理念、「杜にまなび、杜といきる」という理念は大事だと思う。ただ分かりにくい点は多々あるので、どういうイメージを持つかはそれぞれなので、そのあたりをはっきりさせて、ひとつが低炭素社会の項目が出てくると思うので、そのあたりの議論をしていていただきたい。</p>
<p>議長（佐藤会長）</p>	<p>おそらく今出ている議論は、次の環境基本計画の前文あたりでうまく上手に書けるか、それが実はプランの根底をなすものだという話だときいている。なかなか難しい問題もあるなあと思う。</p>
<p>中屋委員</p>	<p>市は「杜の都」のためにいろいろな施策を行ってきている。その成果がど</p>



	<p>れくらいだという話が全然ないので、そのあたりを分かりやすく説明したらいいのではないか。私は1992年に北海道から仙台に移ってきたけれど、仙台市は生垣やコンポスト、ごみ焼却の機器にも補助を出していたと記憶している。そういうところで、杜の緑の環境を広げるとか維持するとかをサポートしてきたことをまとめると、市民との接点が広がると思う。</p>
<p>事務局（環境部長）</p>	<p>事務局としても今までの総括が必要だと考えていたので、今年度第1回審議会で、環境プランの成果、足りないところなどを議論してもらい総括を行った。そして、前回第2回審議会でも各種データを示し、例えば農地が徐々に減ってしまっているとか、前は環境が経済消費活動の制約要因になっていたが、経済と環境の好循環を目指すような、環境産業という意味でも見直していかなければいけないこともあり、かなり細かい図やグラフで示した。まだ足りない部分はあるが、もう一度そこを見返してもらい、議論を深めていただきたい。</p>
<p>議長（佐藤会長）</p>	<p>多分データとしては出ているが、全体が少し見えにくいところがあるのだろう。やはり我々も、仙台市民の方としても、データよりも実感として、トータルとしてこう変わったというのが、形で出るといいのではないか。</p>
<p>事務局（環境部長）</p>	<p>会長に総括していただいたことは非常に重要だと思っており、次回計画にどう書き込むかがあるので、データをみてもらい、今の仙台市の環境がかつてと比べてどうなっているのか、それで、市民感覚、皆様がお持ちの感覚でどうなのかご意見をいただき、私どもで整理し、どう書き込むかを相談させていただきたい。</p>
<p>議長（佐藤会長）</p>	<p>そうすると、ある程度方針の立てやすさがあるだろうし、具体性が出てくる。他に意見はあるか。できるだけ多くの委員の方々から意見をちょうだいしたい。まだ発言されていない方は？</p>
<p>吉岡委員</p>	<p>まず、前回計画での4つの都市像が、今回課題としてあげているものと基本的には中身は同じ気がする。前は地球環境、自然環境、快適な都市環境、生活環境という順番だが、今回は生活環境が最初に来て、自然環境、都市環境、地球環境。順番がついているから優先順位が高いというわけではないとして、そことの関係が、今回の検証に含まれるのではないか。前回の検証結果を踏まえて、今度はこうしようとなるので、先ほど皆さんから意見が出ていることを、是非反映させてほしい。</p> <p>資料5の2ページには、計画期間について10年を目処にとあるが、内容が非常に具体的な細かいところまで出ている。そうすると「葵の御門」的なものになって、「ここにあるからやる」、「書いていないことはできない」、「10</p>

	<p>年を待たないと次の施策ができない」とならないように配慮してほしい。(2)で、計画を見直すことが必要と考える場合には適切に対応すると書いてあるが、期間のところには書いていなくて、場合によっては具体的な内容も見直さなくてはいけないことが出てくるだろう。だから期間にとどまらず、内容を中間段階で見直す部分をどこかに書いてほしい。</p>
杉山委員	<p>建築的なところを話したい。CO2 排出を控えるため、これまでも一般市民は努力していると思う。しかし、いまの快適な環境を守りながら「節約」という「我慢」だけでは限りがあると思う。そこで、建物の断熱性能を上げることを入れてほしい。事務所ビルも住宅も、高気密高断熱化にすることで、エネルギーの消費量が大幅に減る。それは自分自身でも経験している。前に住んでいた賃貸マンションと今の住まい（集合住宅）のエネルギー消費量を5年ずつ計算したら、生活の質は上がっているのに、ガスの使用量が減っていてとても驚いた。ぜひ力を入れて欲しい。</p> <p>建築基準法に耐震、シックハウスについては法的に規制があるが断熱に対してはない。仙台という寒いところで、例えば賃貸、すごい数の賃貸があるが、その断熱性能はどうなのだろうと思う。</p> <p>また、ここ10年仙台市の人口は3000人くらい増えているが、世帯数は4000くらいに増えている。20代30代の単身の方たちの住まいが多いと思う。その世帯数が増えるということは、電気やガスの使用量が増えるはず。マイカーが1/3のCO2を出しているとのことだが、それ以外の部分、住宅のエネルギー使用もこのままではこれから減ることはないように思う。</p>
議長（佐藤会長）	<p>新しい視点、切り口だと思う。私事だが、20年くらい前に北海道から来て家を立てた。窓は北海道仕様で2重ガラス、断熱材を入れて、余分にお金がかかった。すると冬でも家中ストーブ一個で足りている。そういうことも具体的な部分では、本当に大事だと思う。</p> <p>他に発言していない方、是非一言ずつでも結構なので、発言してほしい。</p>
吉岡委員	<p>大学の人間は技術開発を重要視するが、環境関連では、国、自治体も含めた行政サイドの政策や法的な拘束が技術開発を非常に進める場合がある。少なくとも、公害問題等が出てきたときに対しては、より有効に働いた。だから環境は、行政サイドの役割が非常に大きいと思う。先ほど他の委員から行政もちゃんと加わる視点を明確に示してほしいとあったが、是非そこを重要視してほしい。政策となると、市だけでなく、県や国との連携が重要になる。逆に自治体だけでできる部分もある。少しその辺を思い切った形で踏み込んでもらいたい。</p>
小林委員	<p>先ほど、里地里山の活用があったが、資料5の3ページの考えられる観点</p>

の例として、「市民から見た質の高い生活環境の確保の観点」とあるが、実は水質、大気の問題は、全国的にも仙台でもかなり改善されている。これからは景観がもっと大事になると思う。景観について、杜の都環境プランの20ページから21ページに自然的景観の維持・保全とあるが、それだけでなく、市民の日常生活の中でも、景観に対する関心がおそらく高まると思う。

東北の中に素晴らしい取り組みをしている自治体があるので紹介したい。山形県金山町である。町長が約100年をかけて金山町の景観改善を提案し、金山型住宅を普及させている。町内で2000世帯あるうち年間20軒の建替えに町で補助をすると、100年で2000軒の建て替えができる。金山型住宅は、在来工法の住宅、内部はそれほど規制がなく、外部を金山型住宅にあわせてもらう。そのまちは散策して気持ちのいいところである。私は一度出張で行き、二度目は私費で行った。行政観光地という言葉があるが、金山町は観光のためでなく、むしろ地域に住む自分たちが快適に過ごせるようにするためにその施策を始め、期せずして全国各地から視察者が増えている。金山町と仙台市では規模も都市のつくりも違うが、都市においても取り組むべきところが多いのではないか。金山町は金山杉、一時は秋田杉と売られていた素晴らしい杉があり、それを活用することもあって始めた。温暖化対策や生物多様性の観点から森林里山の手入れ、活用は必要になってくる。地元の資源も活用しながら、仙台市の元々杜の都といわれる素晴らしい環境、呼び名も全国に知れわたっているのだから、なるべく何かそういうような施策をとってもらえればいい。

青木委員

私は市民目線から気がついた点を話したい。資料5の一番下のところに良好な環境を支える仕組みづくりとあり、その中でも情報環境の整備、環境教育・学習を地域社会へ更に広げていくとあるが、市民の活動も多岐にわたり、いろいろ成果を出している。特にここ5・6年、サポートセンターの整備も含めて、市民の活動の実践事例やいろんな情報が手に入るように整ってきている。ただどうしても中心部に、拠点や相談できる人が集まっている。仙台市も5区あるので、全地域に均一にはないが、地域特性を活かした拠点に、特徴的な情報が集まっていたり、例えば市民センターの情報の環境整備や、相談対応が可能なスタッフを配置したり、地域に循環を促す機能が付加されることがあってもいい。

このプランの中に直接的に反映されないかもしれないが、実際の運営や実施段階で、地域で活動していると、いろんな機関をまたぐテーマも増えてくるので、協働を推進していくのであれば、分野やセクターを越えながら横断的にすすめないと課題も解決しない場面がある。市民やNPO側でいろんなネットワークを活用して進めているところと、どうしても所管とか担当で2つ3つと庁内で調整が必要な側面も多くあるので、そういった仕組みの部分も検討いただければと感じた。

樋口委員	<p>5ページの低炭素社会都市づくりで、交通問題と個人のライフスタイルが一番大きく効くと思う。今回、自転車の利用促進を大きく打ち出したい。例えば、東二番丁は歩道を大きくして、自転車が通っているが、普通の道路だと自転車は危なくて乗れない場所がある。ライフスタイル、ビジネススタイルの中でも、自転車の活用は非常に難しい。</p> <p>渋滞緩和は平均車速の問題でもあり、車を流す取り扱いも相当大的な効果が出る。それから必要でない車は入れない規制などは、都市部の交通緩和、排出量減少につながるの、具体的に入れてほしい。5ページ1番目の中に入っているが、具体的に相当考慮する必要があると思う。</p>
小林委員	<p>自転車道の整備だが、ヨーロッパでは自転車の利用が盛んで、自転車道の整備もきっちりしている。例えば郊外に出ると車道や歩道のほかに自転車道が両側に整備されているところが結構ある。整備するに当たって取得する土地の関係もあるが、そういう観点を入れれば自転車の利用はもっと進む。</p>
花島委員	<p>この低炭素都市づくりの中でマイカー、あるいは運輸業の占めるウエイトを踏まえた形でターゲットを絞らないと、対策も立てられない印象がある。交通需要管理をどういう形で仙台市が進めるのかを、自転車も出たが利用促進、助長する方向で動機付けをすることは盛り込まれているし、従来の「環境負荷の少ない交通体系の構築」の中にはパークアンドライド、ノーマイカーデー促進、啓発があるが、それだけで達成できるのかという問題がある。</p> <p>他のジャンルは、随分経済活動に規制を行っているが、自動車の規制措置は、あまり打ち出されていない。都市部に入る車の制限、車には3人以上乗るとか海外での規制の例も含めて、規制がないと目標が達成できないか、交通政策ではかなり根本的な選択を迫られると思う。</p> <p>それと関連して、東西線建設が進められているが、建設の議論の中でも、本当にそういう需要があるかの議論があった。縦割りの政策の中でデータをやり取りしないと、お互いにばらばらのものが出てしまう。それは今も課題として残っている。きちんとジョイントした形で施策を打ち出していないと、一方ではこれだけ乗るとい議論で進んでも、本当に自動車から転換するのかと思っている。だから、施策の中に規制的なものが入っていないといけない。CO2 排出の問題だけでなく、従来からの排気ガスの問題もなくなっているわけではない。それはこの分野の中では質の高い環境質を持つ都市づくりに入るのか、切り口によって見えにくくなる部分もあるので、その関連にも留意した施策の位置づけをしてほしい。</p>
小林委員	<p>マイカー規制、交通政策、インセンティブという話が出たが、ストラスプールの例を話す。ストラスプールはLRTを導入し、交通渋滞も緩和し大気</p>

工藤委員	<p>の状況もよくなった。そこではL R Tの軌道だけでなく要所に広い駐車場をつくり、駐車料金を払うと車に載ってきた人数分のL R Tのチケットを支給する取組みをやっている。それくらいの工夫が必要で、是非やってほしい。</p> <p>そういうことは、みやぎ工業会でも提案している。マイカーを使わなくとも移動できるシステムをつくっていけば、規制だけとは違った切り口が大事だなと思う。</p>
議長（佐藤会長）	<p>もうひとつ議題が残っているので、この辺にさせてほしい。</p> <p>フィロソフィーから具体的な施策、やり方のところまで話が出た。フィロソフィーも、そのフィロソフィーで掲げる目標を到達するために具体的に何をやるかも大事で、すべて計画に盛り込めるとは思わないが、少なくとも方向性だけでも出していける計画がつくれればと思う。</p> <p>続いて、議題の（２）だが、前回の審議会で具体的な作業をこのメンバー全員でやるのは難しいので、ワーキンググループというか小規模なグループで作業を進めることを提案し合意をもらっている。その進め方について、事務局から説明願う。</p>
事務局（環境企画課長）	資料6に基づき、起草委員の選任について（案）を説明。
議長（佐藤会長）	<p>では、起草委員というか作業してもらう方々をお願いし、文章化してもらう提案だが、いかがか。このメンバーをお願いすることでよろしいか。</p> <p>（委員了承）</p>
議長（佐藤会長）	<p>では、伊藤委員、工藤委員、杉山委員、西村副会長、花輪委員、お引き受けいただけるか。</p> <p>（起草委員、了承）</p>
議長（佐藤会長）	<p>問庭委員は先ほど所用で先に席を立ったが、事前に内諾をもらったので、全員に快諾いただいた。ハードなスケジュールだが、よろしく願う。</p> <p>また、取りまとめ役として1名の方をお願いしたい。今までも審議会で副会長をやってもらっている西村先生をお願いしたいが、よろしいか。</p> <p>（西村先生、了承）</p>
議長（佐藤会長）	<p>よろしく願う。年末年始の忙しい中、起草委員は日程的に厳しいが、3月に環境審議会にもらう案の策定にご協力をお願い申し上げる。</p> <p>それから先ほどの事務局から説明にもあったが、この作業グループの進行状況は、逐次委員の皆様方にお知らせし、何か意見等があれば途中で結構な</p>

議長（佐藤会長）	<p>ので、お寄せいただきたい。反映できるものは反映していきたいので、それも私から作業グループの皆様をお願いしたい。</p>
事務局（環境企画課長）	<p>それでは、次第の「議事2（3）その他」ですが、事務局から何かあるか。</p> <p>起草委員の会合は1月に予定している。審議会では前回と今回の2回にわたって審議していただいたが、時間の制約等もあり、言い足りなかったこともあると思う。そこで委員の皆様方をお願いだが、1月8日を目処に、本日もお渡ししてある「環境基本計画にかかる意見について」などを利用して、FAXあるいはメール等で事務局まで意見をいただきたい。起草委員での詳細な議論の際に活用させてもらいたい。様式は示しているが、特にフォーマットにこだわらないので、自由をお願いしたい。</p> <p>それから次回審議会は、現時点で来年の3月中旬以降を予定している。総合計画と関連での議論も必要であり、そちらの審議状況も踏まえ、日程を調整し皆様に連絡したい。早くて3月中旬～下旬、もしかしたら4月にずれ込む可能性もお含みいただきたい。</p>
議長（佐藤会長）	<p>先ほど事務局から、FAXあるいはメールで意見を寄せてほしいということだった。1月8日までという一応の期限はあるが、送ってもらえればと思う。それから次回の環境審議会は、3月中旬から下旬、あるいは4月にずれ込むかもしれない。いずれにしても、年度末あるいは年度が始まった時点で、忙しいと思うが、是非出席してほしい。</p> <p>それまでは、起草委員の皆さんに議論を預けるといふか、文章化をお願いするが、どうぞよろしく願います。</p> <p>これで、本日の環境審議会の議事は、すべて終了した。閉会とするが、よろしいか。</p> <p>本日はどうもありがとう。</p>

この議事録について、会議の内容と相違がないことを認める。

平成22年2月19日

仙台市環境審議会署名委員

会長

佐藤 洋



委員

嶋中 貴志

